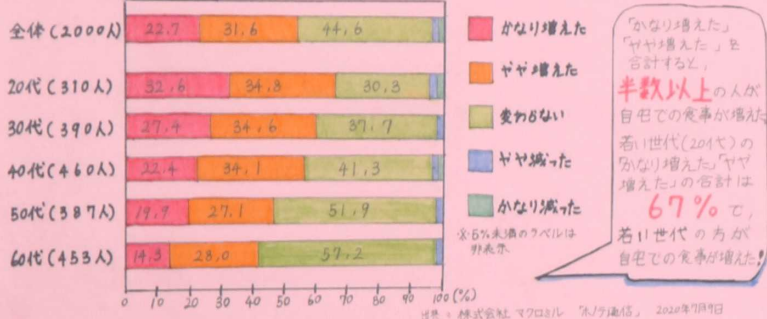


コロナウイルスで 変わる!? 食生活

～コロナウイルスが「食」にもたらした影響とは?～

《自宅での食事頻度の増減》

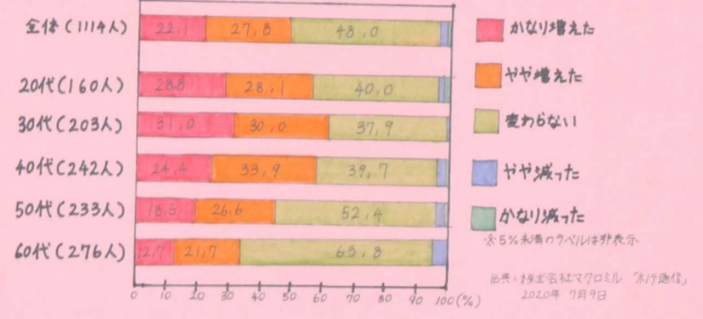
(2020年4月以降, それ以前とで比較したグラフ)



「かなり増えた」「やや増えた」を合計すると、**半数以上の人が自宅での食事が増えた**。若い世代(20代)の「かなり増えた」「やや増えた」の合計は**67%**で、若い世代の方が自宅での食事が増えた!

《料理頻度の合計》

(2020年4月以降, それ以前とで比較したグラフ)



《フードデリバリーの利用者数推移》

(2019年5月～2021年4月)



1度目の緊急事態宣言発令期間中

約330万人の利用者

2度目の緊急事態宣言発令期間中

約980万人の利用者

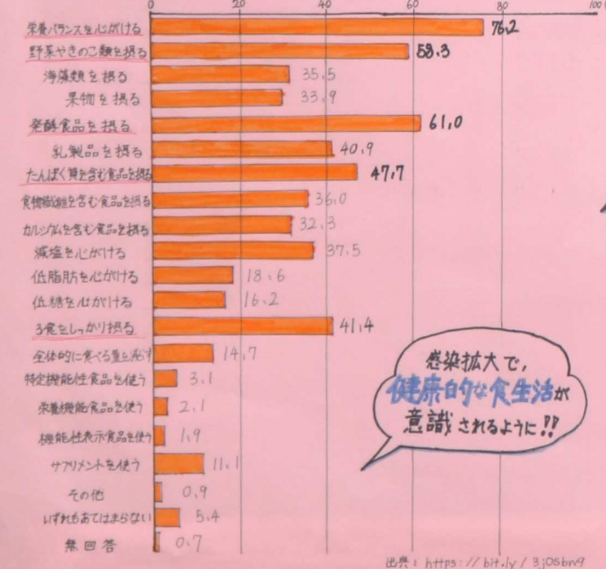
約3倍増加!!

2020年3月 約330万人の利用者

2021年3月 約980万人の利用者

《感染拡大で、料理で気を付けていること》

(5754人に調査)

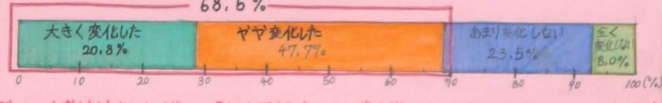


感染予防のため、免疫力アップの食材に注目する人が増えたことで、栄養バランスや野菜などを料理を作る時に気にする人が増えていったと考えられる。

感染拡大で、健康的な食生活が意識されるように!!

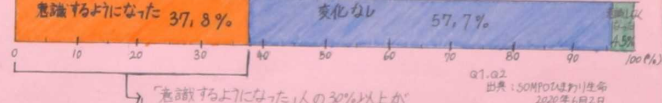
《Q1新型コロナ感染流行を機に、あなたの健康意識は変化しましたか?》

(1000人に調査)



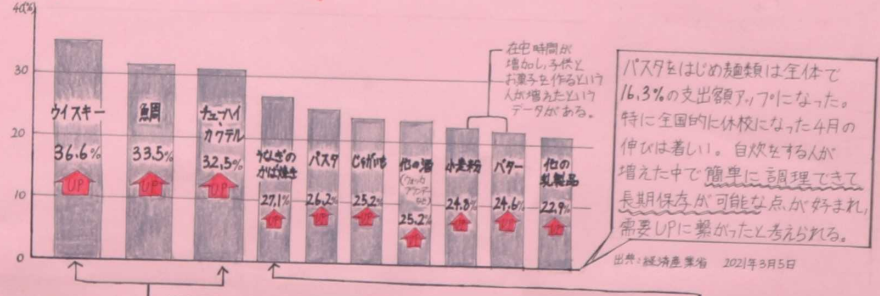
《Q2新型コロナ感染流行を機に、「生活習慣病」への意識はどのように変化しましたか?》

(1000人に調査)



「意識するようになった」人の30%以上が「食生活の改善に取り組んでいる」というデータがある。

《2020年に売れた食品》



2020年では、ウイスキーやチューハイ、カワチなど酒類の年間支出額が急上昇していった。これはコロナウイルスでの巣籠り生活の定着で、「家飲み」需要が高まったからと考えられる。

バターややなぎのかぼちゃの他にもほかにも比較的高額な時期消費が増えた。旅行や外食への支出が減少する中、普段買出し回らない食材がスーパーに安く並ぶ例もあり、自宅で解決したいという需要ともマッチして、消費増になったと考えられる。

《2020年に支出額の上った「中食」》

- 1, 冷凍調理食品 12.4% ↑
 - 2, ハンバーガー 11.5% ↑
 - 3, ハンバーグ 10.3% ↑
- (他) ・他の主食的調理食品 (レトルト食品、たこ焼き等) 8.0% ↑
・弁当... 2.8% ↑ ・お弁当... 3.5% ↑

「中食」とは? 家庭外で調理された食品を、購入し家庭内で食べること。コロナ感染拡大で家庭での料理の負担が増えたことで、冷凍食品やレトルト食品、弁当の需要がUPした。一方、需要の減った外食産業でも、従来からテイクアウトの多かったハンバーガーは減少せず増えている。

《考察》

新型コロナウィルスの感染拡大により、在宅時間が増えたことで「自宅での食事」や料理頻度が増加、フードデリバリー利用の増加に繋がったと考えられる。また、感染予防のため、家庭での料理に野菜や発酵食品を取り入れることを心がけるなど、食の健康意識が高まっているという良い変化がある。他にも、冷凍食品や長期保存可能な食品は、共働き世帯の増加などで需要が高まっていると考えられる。このことから、今後は外食産業でのテイクアウトや弁当販売、デリバリーサービスに力を入れたり、スーパーでは需要の高い食品の仕入れに力を入れたりし、感染拡大による人々の生活の変化に合わせた企業改革を行っていくべきだと考えられる。

《一方支出の上がった主な品目とは...》

- ・まんじゅう (-17.6%)
- ・カステラ (-12.2%)
- ・ゼリー (-12.7%)

これらの食品は、人にあげたりと、「贈答品」として購入されることが多かった。そのため、支出が減少したのは、**人会う機会が減少したこと**が要因だと考えられる。